

税金に支えられて

町田市立町田第一中学校3年

大塚 祐未

平成26年8月31日。私の人生が大きく変わった日だ。その日、私の父は下北沢の駅の階段からまさかさまに落ちて、大けがをしてしまったのだ。それまで特別幸せだと感じていなかったごくごく普通の生活が、どれ程幸せだったのか痛感する。

父は、8ヶ月間の入院生活を経て、身体のまひは回復したが、頭に障害が残ったままの退院、そして自宅療養となった。入院中には町田市の職員さんが何度も訪ねてきて下さり、父の退院後の不安や、私たち家族の不安も丁寧に取り除いて下さった。

父は約3年という時間が経った現在も懸命にリハビリを続けている。だが、いまだ働けない状態で、ここまでたくさんの人々、そしてたくさんの制度に私達家族はささえられてきたのだ。父は今、東京都の心身障害者センターで、社会復帰のための訓練をしている。この施設には、税金が使われている為、父は利用料がかからず安心して訓練を受けることができている。実際、働きざかりの一家の大黒柱が働けなくなってしまったのだから、もしも費用がかかるとなると、十分な訓練を受けることも難しかったと思う。そのため、非常に助けられている。他にも、心身障害を除去・軽減するための医療費の自己負担額を軽減する公費負担の医療制度や、復職の支援をして下さる

就労支援施設など、今まで知らなかった税金の使われ方がたくさんある事がわかった。

今までの私は、「百円ショップなのに、なぜ百円ではないのだろう」という疑問とともに、ほんのわずかな金額ではあるが、子どものお小遣いからその金額を払うのは、大変だな、と感じていた。実際、当時小学生だった私に「税金」と言われても、それがどんな意味を持つのか、良くわかっていなかった。でも、今、良く考えてみると、私が安心して楽しく学校に通うことができる事も、進路を考えるときに、高校の授業料のことを心配しないで選ぶことができるのも、全て税金に支えられてのことなのだ。

私は、父の事故の後、社会的に弱い立場となり、社会保障制度のありがたさや、税金の大切さを、人一倍感じる事ができた。また、税金はこんなにも身近な存在だったのだと気付くことが出来た。だからこそ、今は一生懸命に努力し、自分が社会に出て働く立場になった時には、納税を通じて社会に貢献できる立派な大人になりたい。そして、社会で広く公平に税金が使われ、より良い社会になるように、税金の使い道にも関心を持ち、将来は選挙を通じて反映させていけたら良いと思う。